青森市埋蔵文化財調査報告書 第101集

大矢沢野田遺跡

発掘調査報告書Ⅱ

平成 20 年度

青森市教育委員会

青森市埋蔵文化財調査報告書 第101集

大矢沢野田遺跡

発掘調査報告書Ⅱ

平成 20 年度

青森市教育委員会

序

大矢沢野田遺跡は、青森市大字大矢沢字野田・字里見および幸畑１丁目地内に所在する縄文時代早期～後期、平安時代を主体とする遺跡であります。過去数回に亘って発掘調査が実施されており、平成10年度の青森県教育委員会による調査では、約30,000年前と13,000年前の埋没林や縄文時代の河川跡が検出されました。また、平成11～13年度の当教育委員会による発掘調査では、約6,000年前（縄文時代前期）の竪穴住居跡や遺物捨て場などを検出しています。

今年度の市道筒井幸畑団地線道路整備事業における墓地移転工事に先立つ発掘調査では、縄文時代の土坑４基、平安時代の土坑１基、江戸時代の溝跡１条、縄文時代の土器等が検出されております。

本書は、このたびの発掘調査成果をまとめたものであり、今後の埋蔵文化財保護ならびに調査・研究に活用されることを願ってやみません。

本書の刊行にあたり、関係機関および関係各位のご理解とご協力に深く感謝いたします。

平成21年３月

青森市教育委員会

教育長　**角　田　詮二郎**

例　　言

1．本書は、青森市教育委員会が発掘調査を実施した青森市大字大矢沢字野田・字里見および幸畑１丁目に所在する大矢沢野田遺跡の発掘調査報告書である。当委員会が平成14年（2002）に刊行した『大矢沢野田（１）遺跡発掘調査報告書』（青森市埋蔵文化財調査報告書第61集）に倣い、『大矢沢野田遺跡発掘調査報告書Ⅱ』と題した。

2．本書に記載される内容は、平成20年度に実施した市道筒井幸畑団地線道路整備事業における墓地移転工事に係る発掘調査成果をまとめたものである。

3．本遺跡は、青森県埋蔵文化財包蔵地台帳に遺跡番号01292として登録されている。

4．本書の執筆ならびに編集は、青森市教育委員会（設楽政健・野坂知広）が行った。執筆分担は各文末に記した。

5．出土遺物および記録図面、写真関係資料は青森市教育委員会が保管している。

6．引用・参考文献は巻末にまとめた。

7．発掘調査および報告書の作成にあたって、次の各機関・各位からご指導・ご協力を賜った。記して謝意を表する次第である（敬称略・順不同）。

青森県教育庁文化財保護課、青森市都市整備部道路建設課、青森市史編さん室、高橋　潤

凡　　例

1．挿図番号および表番号、写真図版番号は本書を通じて連続するものとし、「第○図」、「第○表」、「写真○」と表記した。

2．遺構の略称は、土坑＝ＳＫ、溝跡＝ＳＤである。また、図中で使用したアルファベットを用いた略称は、ＬＢ＝ロームブロック、Ｔｏ－ａ＝十和田ａ火山灰である。

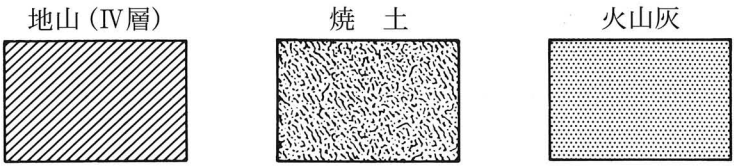
3．挿図の縮尺は各図毎に示した。また、写真図版の縮尺は統一していない。

4．遺物実測図には、括弧内に出土遺構あるいは出土グリッドを明記した。

5．遺物実測図・遺物写真図版の縮尺は、1/2である。なお、遺物写真図版には、個々に挿図（遺物実測図）の図版番号を付してある（例：10－１＝第10図１）。

6．土層の注記は、『新版標準土色帳』（小山正忠・竹原秀雄1993）に準拠した。

7．図中で使用したスクリーントーンは、以下の通りである。



目　　次

序
例言・凡例
目次
第Ⅰ章　調査の概要 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査要項 …… 1
　第３節　調査方法 …… 3
　第４節　調査経過 …… 3
第Ⅱ章　遺跡の概要 …… 5
　第１節　地理的・歴史的環境 …… 5
　第２節　周辺の遺跡 …… 6
　第３節　基本層序 …… 8
第Ⅲ章　検出遺構と出土遺物 …… 9
　第１節　土坑 …… 9
　第２節　溝跡 …… 13
　第３節　出土遺物 …… 15
まとめ …… 17
引用・参考文献 …… 18
写真図版 …… 19
報告書抄録

挿図

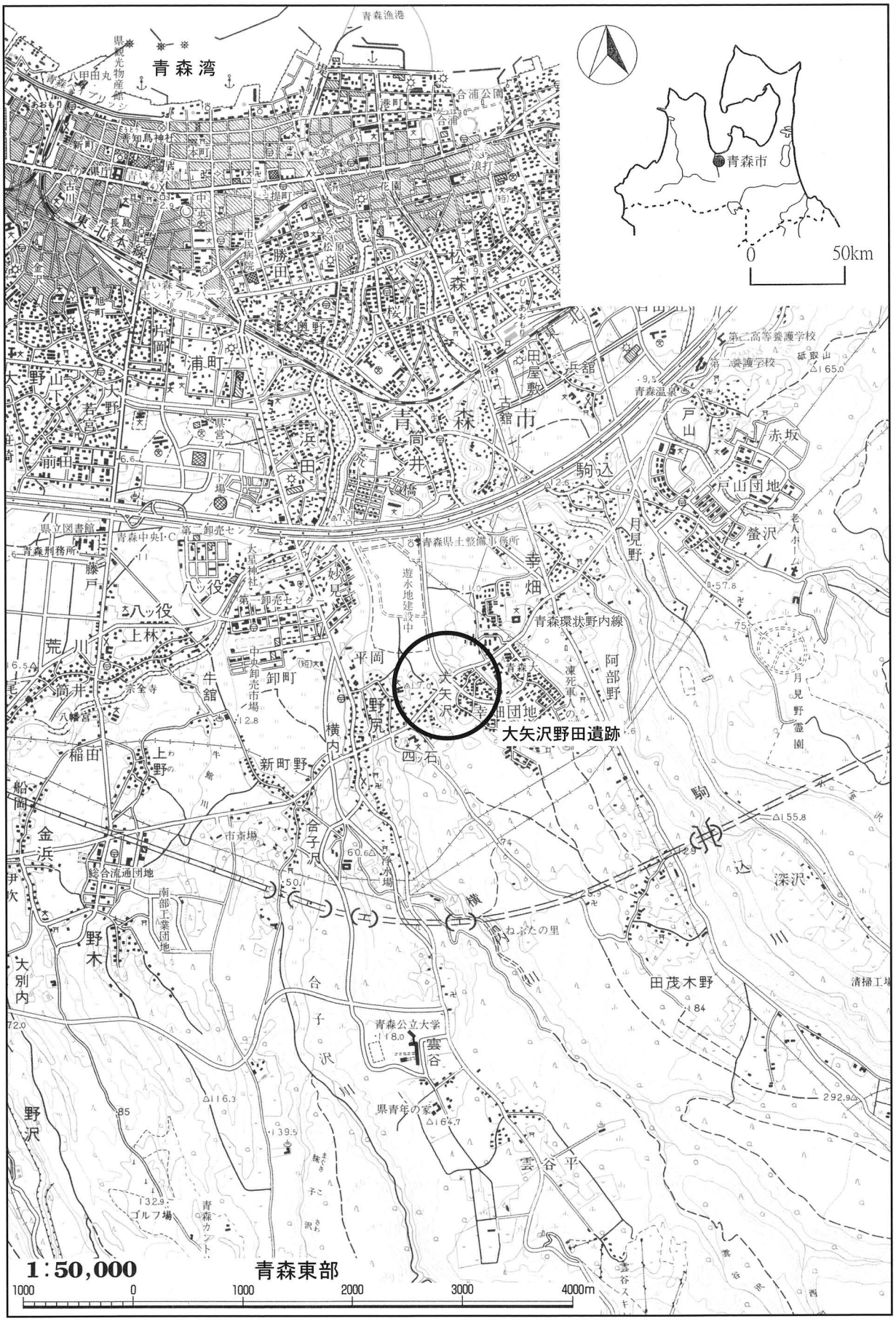
第１図　遺跡の位置
第２図　調査区の位置 …… 2
第３図　グリッド設定および遺構配置図 …… 4
第４図　周辺の遺跡 …… 7
第５図　基本層序 …… 8
第６図　土坑(1) …… 10
第７図　土坑(2) …… 12
第８図　溝跡 …… 14
第９図　出土遺物 …… 16

表

第１表　周辺の遺跡 …… 7
第２表　出土遺物観察一覧 …… 15

写真図版

写真１　検出遺構(1) …… 20
写真２　検出遺構(2) …… 21
写真３　検出遺構(3) …… 22
写真４　検出遺構(4) …… 23
写真５　検出遺構(5) …… 24
写真６　検出遺構(6) …… 25
写真７　出土遺物 …… 26


青森湾
青森市
0
50km
大矢沢野田遺跡
1:50,000
青森東部
1000
0
1000
2000
3000
4000m

第１図　遺跡の位置

第Ⅰ章　調査の概要

第１節　調査に至る経緯

平成19年４月17日、青森市教育委員会文化財課に市道筒井幸畑団地線道路整備事業における墓地移転工事に係る「埋蔵文化財（遺跡）等協議書」が青森市都市整備部道路建設課（以下、道路建設課）より提出された。遺跡地図と照合した結果、対象地が大矢沢野田遺跡（青森県埋蔵文化財包蔵地台帳番号01292）に該当していたことから、道路建設課と協議のうえ、平成19年11月19日～30日の日程で確認調査を実施することとなった。開発予定地（1,500㎡）に任意のトレンチを13ヶ所設定し、遺構確認を行い、２号トレンチより土坑１基・溝状遺構１条、７号トレンチより土坑１基・溝状遺構１条、10号トレンチより土坑１基、11号トレンチより土坑１基の遺構プランを確認した（青森市教育委員会2008）。

確認調査の結果を受けて、道路建設課と再度協議し、平成20年６月３日～８月11日の日程で発掘調査を実施することとなった。

第２節　調査要項

１．調査の目的

墓地移転工事に先立ち、予定地内に所在する埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を図るとともに、地域における文化財の活用に資する。

２．遺跡名および所在地

大矢沢野田遺跡（青森県埋蔵文化財包蔵地台帳番号　01292）

青森市幸畑１丁目ほか

３．発掘調査期間　平成20年６月３日～８月11日

４．調査面積　1,003㎡

５．調査委託者　青森市都市整備部道路建設課

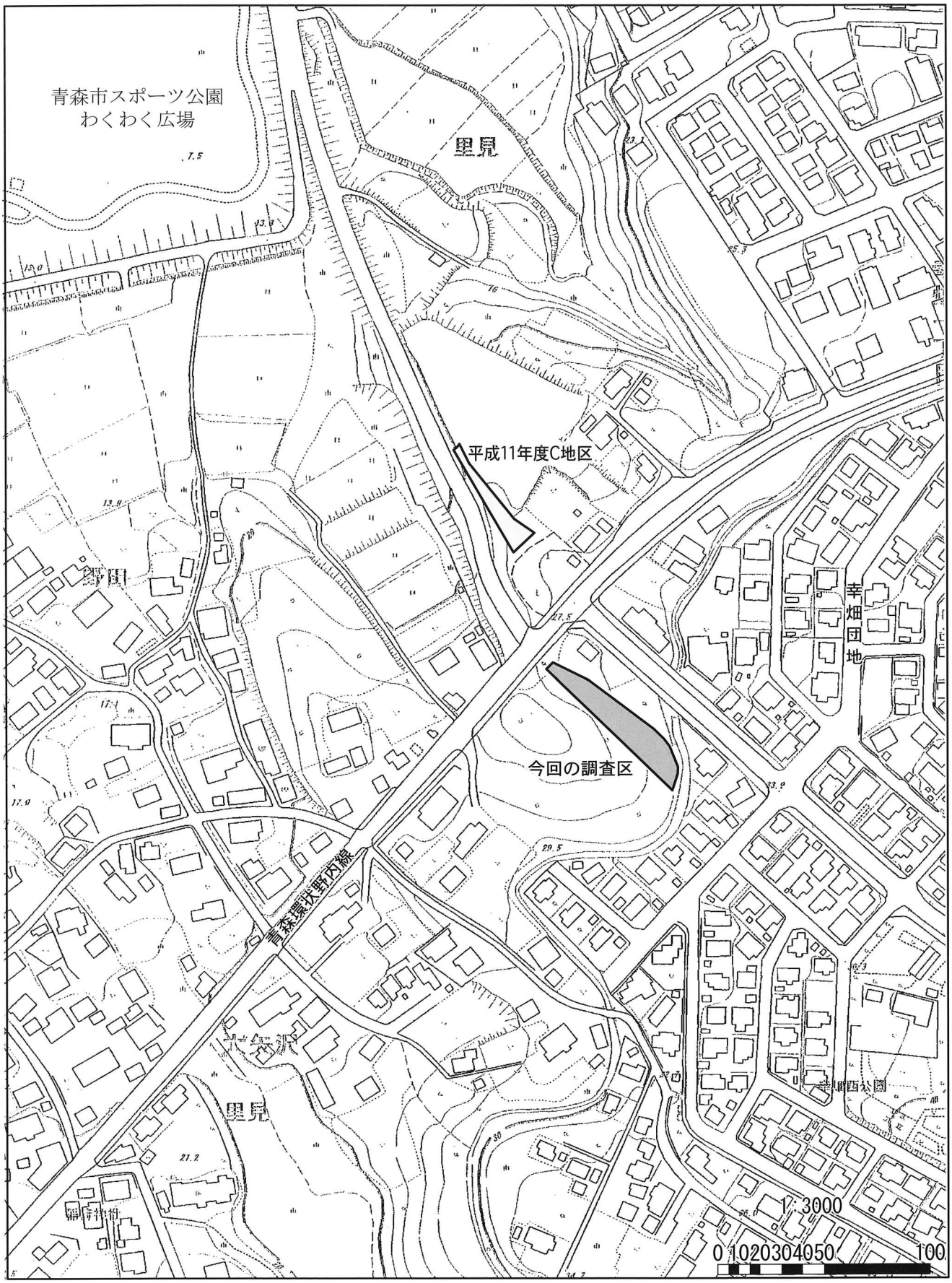
６．調査受託者　青森市教育委員会事務局文化財課

７．調査担当機関　青森市教育委員会事務局文化財課

８．調査指導機関　青森県教育庁文化財保護課

９．調査体制　調査事務局　青森市教育委員会

教育長	角田詮二郎	文化財主査	木村　淳一
教育部長	古山　善猛	文化財主事	児玉　大成（調整担当）
次長	今村　貴宏	〃	設楽　政健（調査担当）
参事・文化財課長事務取扱	遠藤　正夫	主事	越谷美由紀（庶務担当）
主幹	藤村　和人	〃	竹ヶ原亜希（　〃　）
文化財主査	小野　貴之	埋蔵文化財調査員	野坂　知広（調査担当）


青森市スポーツ公園
わくわく広場
里見
平成11年度C地区
野田
幸畑団地
今回の調査区
青森環状野内線
大矢沢
里見
1:3000
0 10 20 30 40 50 100

第２図　調査区の位置

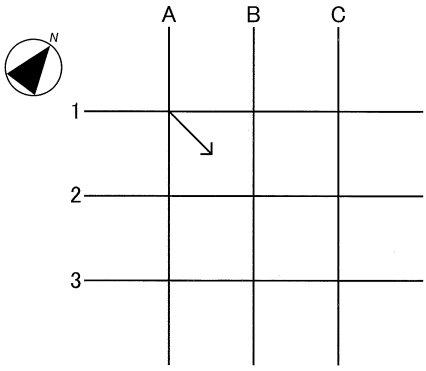
第３節　調査方法

調査区は遺跡範囲内の南側縁辺にあたり、南東から北西に向かって細長い形状を呈している（第２図）。公共座標に基づいた任意の起点から、調査区全体が網羅されるように４×４ｍのグリッドを設定した（第３図）。グリッドの呼称は、北東側に向かってＡ、Ｂ、Ｃ・・・の順にアルファベット、南東側に向かって１、２、３・・・の順に算用数字を付し、両者の組み合わせで示した。測量原点は、主要地方道青森環状野内線沿いの三角点（標高26.509m）より移動を行った。

発掘調査は、確認調査における遺構確認面まで重機で慎重に表土を剥ぎ取り、確認された遺構について順次精査していく方法をとった。なお、排土置場がないため、調査区を東西に二分し、まずは西側の土を東側に盛り、西側調査区の調査終了後、東側の土を西側へ移動して東側調査区の調査を行った。

遺構精査は、土坑では２分法を用いて、溝跡では任意に土層観察ベルトを設定して断面図を作成し、平面図は簡易遣り方測量とトータルステーションを併用した。縮尺は原則として20分の１とし、写真は遺構確認状況、土層断面、完掘状況を主に撮影した（デジタルカメラ使用）。

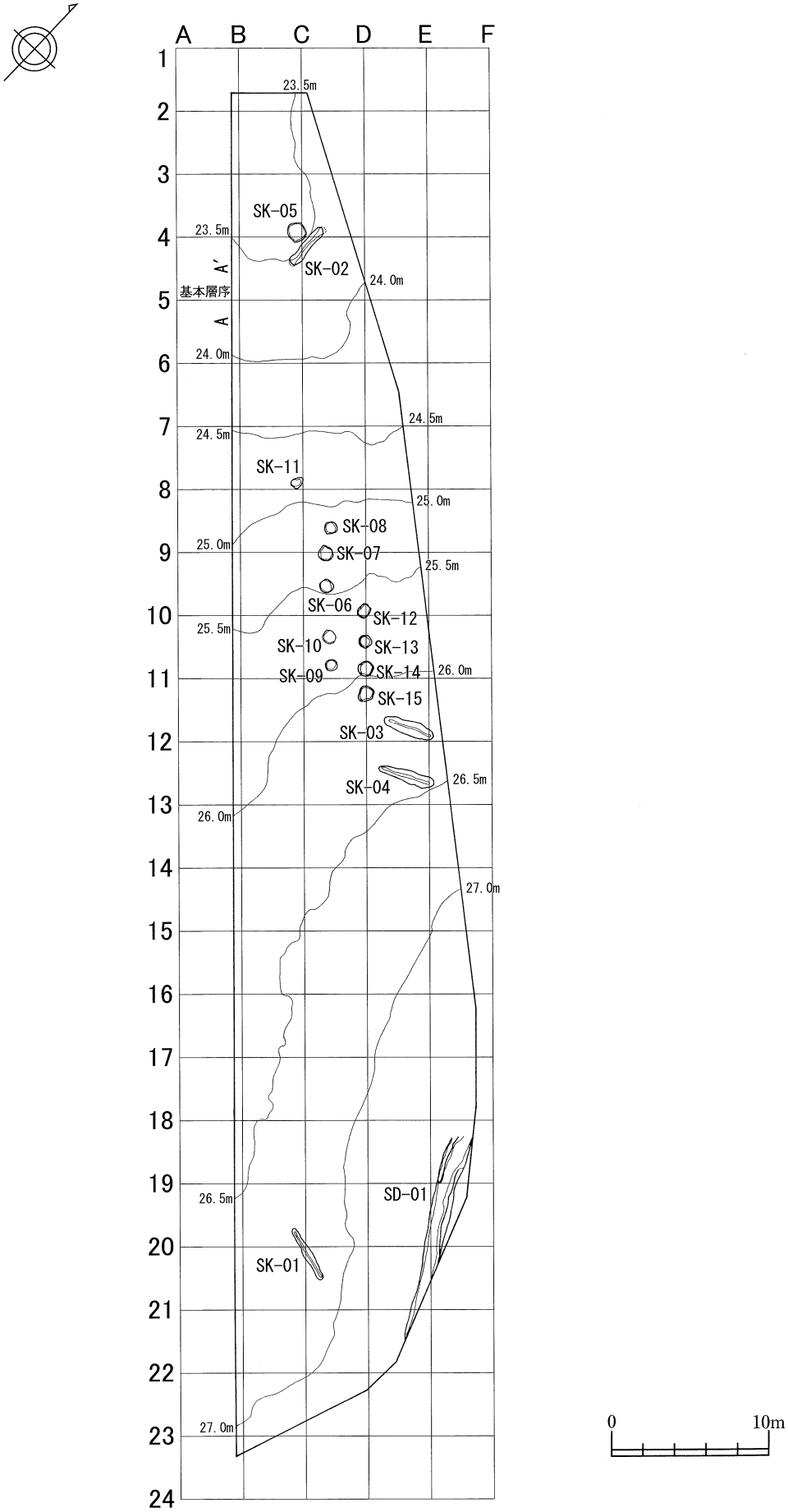
（例：Ａ－１グリッド）



第４節　調査経過

平成20年６月３日、発掘調査開始。はじめに西側調査区について重機による遺構確認面までの掘削を行い、その後、鋤簾がけにより遺構確認を行った。土坑９基を検出し、調査区南側から順に遺構精査を実施した。土坑２基はいわゆるＴピットと呼ばれる縄文時代の溝状土坑であり、遺構の幅が狭く深いために調査には時間を要した。西側調査区の調査終了後、７月22日から東側調査区について重機による遺構確認面までの掘削を行い、その後、鋤簾がけにより遺構確認を行った。土坑６基、溝跡１条を検出し、調査区南側から順に遺構精査を実施した。同じく土坑２基は縄文時代の溝状土坑であり、30cm弱の幅に対して遺構確認面からの深さが150cm以上の土坑もあった。８月11日にすべての作業を終了し、機材等を撤収した。

（設楽　政健）



第３図　グリッド設定および遺構配置図

第Ⅱ章　遺跡の概要

第１節　地理的・歴史的環境

大矢沢野田遺跡は、中心市街地から南方に約５km離れた青森市大字大矢沢字野田・字里見および幸畑１丁目地内に所在しており、青森平野と八甲田山系に連なる台地（微高丘陵）の境目付近、横内川右岸の扇状地周辺に占地する（第１図）。青森市は、北を陸奥湾に面し、青森平野を取り囲むように西～南～東側に丘陵地が広がる地勢を呈しているが、本遺跡の立地する南側台地には荒川・横内川・駒込川等の河川が蛇行しながら北流し、それぞれ舌状台地を形成する。緩斜面上には縄文時代および平安時代の集落跡が数多く発見されており、青森市内の遺跡の大半が丘陵地に集中している。

丘陵地の地質は、『土地分類基本調査』（青森県1982）によると、黒色・黒褐色土を主体とする表土に覆われ、地山は八甲田山の火山噴出物によって構成されるという。「下位より、溶結凝灰岩、軽石粒堆積物、火山泥流、火山灰ＡおよびＢに区別され」、火山灰Ａは三内火山灰層に、火山灰Ｂは「下位より、赤褐色粘土質火山灰、砂質の浮石粒を含む火山灰および淡黄褐色の軽石質火山灰等に細分される」ことから、下位の大谷火山灰層、上位の月見野火山灰層にそれぞれ比定されている。

本遺跡の北側約１kmには国道環状７号バイパス、南側には主要地方道青森環状野内線が東西に横走するが、環状野内線を挟んださらに南側の幸畑団地北域も遺跡範囲に含まれる。本遺跡全体は、平野部・丘陵縁辺部・丘陵部に大別できるが、今回の調査区は標高30m内外の丘陵部にあり、緩やかに北傾する斜面上に占地している（第２図）。青森市企業局のポンプ施設（幸畑団地ポンプ所）が隣接し、三方を住宅地に囲まれているが、現状がリンゴ果樹園であったために自然地形が残されたものと思われる。

本遺跡は、縄文時代早期前半から後期初頭までの遺跡と推定されており、平成10年度には堤川広域基幹河川改修事業（横内川治水緑地造成工事）に伴い青森県教育委員会により現在の青森市スポーツ公園わくわく広場周辺区域の発掘調査が実施されている（青森県教育委員会1999）。平野部から旧石器時代～縄文時代前期の埋没林のほか、縄文時代前期中葉の遺物を包含する河川跡が発見され、縄文時代前期初頭（表館式・早稲田６類期）と思われる土坑５基を検出している。河川跡からは縄文時代早期前半の貝殻腹縁文を有する土器片も出土している。

その後、平成11年度には、当教育委員会によって市道筒井幸畑団地線整備工事予定地と重複する工事用道路範囲の発掘調査が実施され、竪穴住居跡１軒、土坑１基、Ｔピット１基、溝状遺構１条、遺物集中ブロックを検出した（青森市教育委員会2000）。竪穴住居跡は縄文時代前期初頭に帰属し、遺物集中ブロックからは前期中葉の土器群が多く出土している。丘陵部の南側地区（Ｃ地区）からは縄文時代前期～中期のフラスコ状土坑、Ｔピットが各１基ずつ検出されており、隣接する今回の調査区との類似点が指摘されよう。特に、Ｔピット（SK-03）の主軸方向は今回の調査結果に近似する。

また、平成12・13年度にも当教育委員会によって平野部の発掘調査が実施され、平成11年度に確認されていた竪穴住居跡１軒のほか、土坑２基、焼土遺構１基、ピット47基等が調査されている（青森市教育委員会2001ｂ・2002）。竪穴住居跡の平面形は隅丸長方形を呈し、壁際には四隅を基本に計13基の柱穴ピット、床面中央部からも１基の柱穴ピットが検出されており、住居の上部構造を窺う資料として注目を集めている。

第２節　周辺の遺跡

横内川と駒込川に挟まれた本遺跡の立地する微高丘陵上には、多くの遺跡が点在している。近接する野尻野田遺跡・野尻館遺跡・大矢沢里見遺跡・四ツ石（３）遺跡・横内城跡・阿部野（１）遺跡・阿部野（２）遺跡・阿部野（３）遺跡・駒込館遺跡・四ツ石（１）遺跡・四ツ石（２）遺跡・横内（３）遺跡・桜峯（２）遺跡・横内猿沢遺跡・横内（１）遺跡・横内（２）遺跡・合子沢松森（１）遺跡・合子沢松森（２）遺跡の中には当教育委員会により発掘調査が実施された例も少なくない（第４図・第１表）。

横内城跡は、昭和61年度、寺院改築に伴う発掘調査が行われ、中世と思われる竪穴遺構３基・土坑２基・溝状遺構１条を検出している。整地された盛土の中から縄文土器・土師器・中世陶磁器・古銭などが出土している。城館そのものの縄張りは測量していない（青森市教育委員会1987）。

阿部野（１）遺跡は、昭和49年度、市営住宅（幸畑団地）建設に伴う発掘調査が実施されており、縄文時代早期後半（ムシリⅠ式）の土器片ならびに平安時代の竪穴住居跡６軒・土坑１基が検出されている（日本考古学協会1976・葛西1978）。比較的大型の第３号住居跡は銅製品の工房跡に推定されており、出土した坩堝などとともに注目を集めた。また、平成19年度には高圧送電線鉄塔建設に伴う発掘調査が実施され、縄文時代前期～中期を主体とする土坑３基が検出されている（青森市教育委員会2009）。

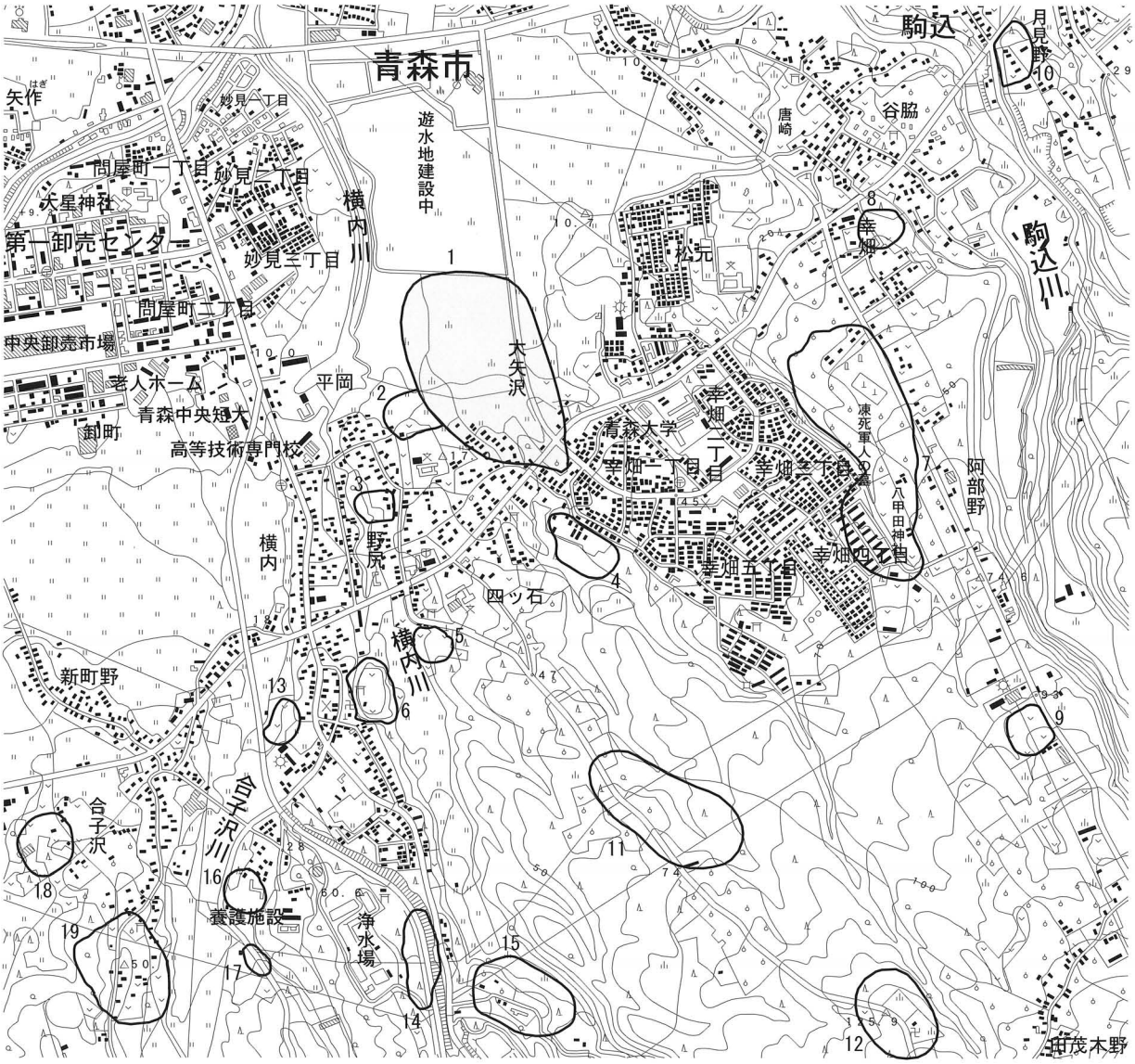
駒込館遺跡は、平成14年度、資材置場造成に伴う試掘調査が実施され、平安時代の竪穴住居跡３軒・溝跡１条を検出した。中世城館に関わる縄張りや遺構は確認されず、地元住民によると、掘切跡はかつて調査区の南西側にあったが埋められてしまったとのことであった（青森市教育委員会2003）。

四ツ石（１）遺跡は、昭和38・39年度に発掘調査が行われ、焼土や灰層、小規模の配石遺構が検出されたほか、縄文時代後期前半の遺物が多量に出土した（青森市教育委員会1965）。豊富な土器資料のみならず、土偶・キノコ形土製品・鐸形土製品や三角形岩版・青竜刀形石器・石刀・石棒・球状石製品・有孔石製品など多くの土製品・石製品も出土している。平成２年度には、青森山田高校考古学研究会による学術調査が実施され、土器編年研究を目的に貴重な資料が発見されている（青森山田高校考古学研究会1987）。当教育委員会の調査では、縄文時代後期前葉の十腰内Ⅰ式土器が主体であったのに対し、青森山田高校の調査では、十腰内Ⅱ式との中間型式の土器が出土し、「四ツ石式土器」と仮称されている。

桜峯（２）遺跡は、平成６年度、国道103号横内バイパス改良工事に伴う発掘調査が実施され、縄文時代中期の竪穴住居跡１軒・土坑35基・配石遺構２基・埋設土器遺構１基が検出されている。土坑のうち12基はフラスコ状土坑であり、さらにそのうち２基は底面から赤色顔料が検出され、墓坑に転用した可能性が指摘されている（青森市教育委員会1995ｂ）。

横内（１）遺跡は、平成6年度、市道合子沢６号線道路改良事業に伴う発掘調査が行われ、縄文時代前期中葉～後葉の竪穴住居跡3軒を検出した。続けて調査された横内（２）遺跡では、平安時代（10世紀前半）の竪穴住居跡１軒、縄文時代（中期前半主体）の土坑26基、時期不明の溝状遺構２条が検出されている（青森市教育委員会1995a）。

合子沢松森（２）遺跡は、平成16・17年度（2004・2005）に亘って、新幹線建設に先立つ発掘調査が行われ、平安時代の竪穴住居跡や土師器・須恵器のほか、Ｃ字状に二度拡張された円形周溝遺構、土師器合口甕棺遺構などが検出されている（青森市教育委員会2007）。特に、宮城県北部・岩手県南部を中心に東日本一円から検出例の報告される土師器合口甕棺遺構は、本県では数例が確認されるに過ぎない僅少な遺構として知られ、その性格については、埋葬施設あるいは祭祀施設など諸説が提起されている。



第４図　周辺の遺跡

第１表　周辺の遺跡

番号	遺跡番号	遺　跡　名	所　在　地	種　別	時　代	文　　献
1	01292	大矢沢野田遺跡	大字大矢沢字野田、字里見	集落跡	縄文、平安	青森県教育委員会1999、青森市教育委員会2000・2001b・2002
2	01283	野尻野田遺跡	大字野尻字野田	散布地	平安	
3	01173	野尻館遺跡	大字野尻字野田	城館跡	中世	
4	01236	大矢沢里見遺跡	大字大矢沢字里見	散布地	縄文	
5	01215	四ツ石(3)遺跡	大字四ツ石字里見	散布地	縄文	
6	01174	横内城跡	大字横内字亀井	城館跡	中世	青森市教育委員会1987
7	01050	阿部野(1)遺跡	大字幸畑字阿部野	集落跡	縄文、奈良、平安	日本考古学協会1976、藤田1975、葛西1978、青森市教育委員会2003・2009
8	01219	阿部野(2)遺跡	大字幸畑字阿部野	散布地	平安	
9	01220	阿部野(3)遺跡	大字幸畑字阿部野	散布地	平安	
10	01048	駒込館遺跡	大字駒込字桐ノ沢	城館跡	中世、平安	青森市教育委員会2003
11	01028	四ツ石(1)遺跡	大字四ツ石字里見	集落跡	縄文（中・後）、平安	青森市教育委員会1965、三宅1972、青森山田高校考古学研究会1987
12	01194	四ツ石(2)遺跡	大字四ツ石字里見	散布地	縄文（中・後）	成田1982
13	01293	横内(3)遺跡	大字横内字亀井	散布地	平安	
14	01208	桜峯(2)遺跡	大字横内字桜峯	集落跡	縄文（前～後）	青森市教育委員会1995b
15	01284	横内猿沢遺跡	大字横内字猿沢	散布地	平安	
16	01164	横内(1)遺跡	大字合子沢字山崎	集落跡	縄文（前）	青森市教育委員会1995a
17	01206	横内(2)遺跡	大字合子沢字山崎	散布地	縄文	青森市教育委員会1995a
18	01261	合子沢松森(1)遺跡	大字合子沢字松森	散布地	縄文	
19	01262	合子沢松森(2)遺跡	大字合子沢字松森	集落跡	縄文（早・前・後）、平安	青森市教育委員会2005・2006・2007

第３節　基本層序

基本層序は、調査区南壁（Ａ－４・５グリッド、第３図）で観察し、おおむね４層に分層された。黒褐色土を主体とするⅡ層付近には縄文前期末葉～中期初頭の土器片が微量ながら混在しており、本来の遺構面はⅡ層にあった可能性が高い。Ⅲ層は漸移層と思われ、Ⅳ層（地山ローム）は上位の月見野火山灰層を主体とし、下位に大谷火山灰層が観察される。

今回の調査区は、北側へ向かって傾斜する地形に占地しており、調査区南東端と北西端には約3.5mの比高差がある。土層の内容は以下の通りである（第５図）。

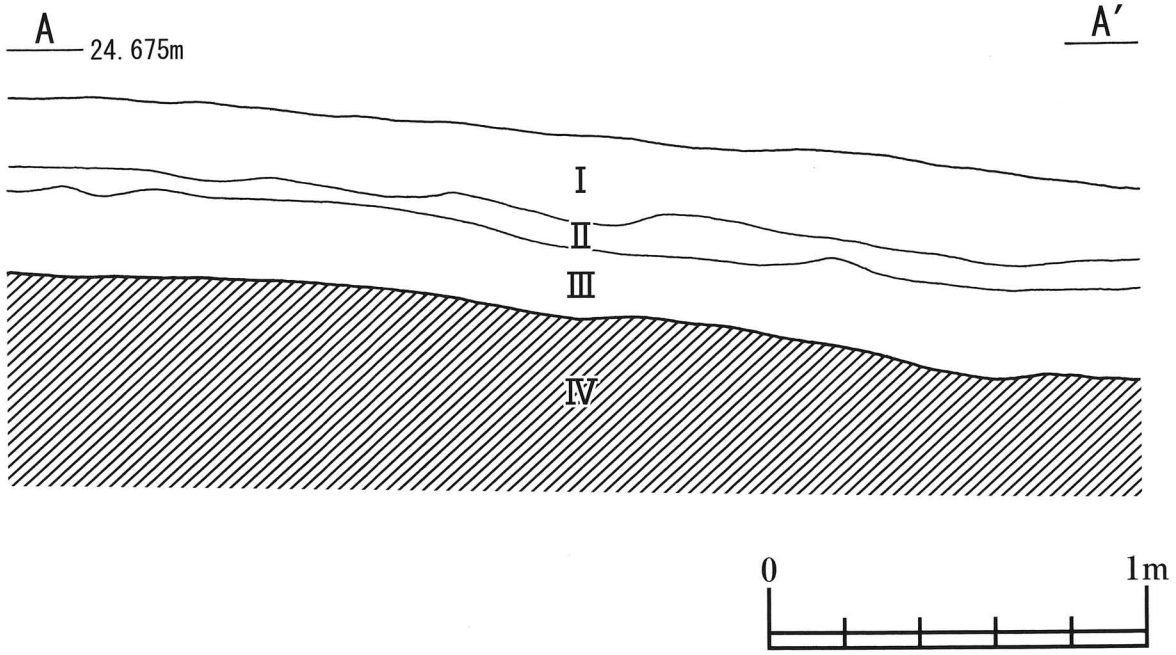
（野坂　知広）

第Ⅰ層　黒褐色土（10YR2/2）　表土層、ローム粒（φ１～２㎜）微量、炭化粒（φ１㎜）極微量

第Ⅱ層　黒褐色土（10YR2/2）・暗褐色土（10YR3/3）　混合土、ローム粒（φ1～2㎜）微量、炭化粒（φ1～2㎜）極微量

第Ⅲ層　黒褐色土（10YR2/3）　漸移層、ローム粒（φ１～５㎜）少量、炭化粒（φ１～５㎜）微量、暗褐色土（10YR3/4）少量含む

第Ⅳ層　褐 色 土（10YR4/6）　地山層、上位に黄褐色ローム（月見野火山灰層）、下位に赤褐色粘質ローム（大谷火山灰層）が堆積する。



第５図　基本層序

第Ⅲ章　検出遺構と出土遺物

第１節　土坑

第１号土坑（SK-01、第６図）

Ｂ－19・20およびＣ－20グリッドに位置する。平面はほぼ直線の溝状（長楕円形）を呈し、規模は長軸368cm×短軸55cm×深さ86cmを測る。いわゆるＴピットと呼ばれる溝状土坑であり、断面は上位のみ緩やかに外傾し、下位はほぼ垂直に立ち上がる。底面は若干の凹凸はあるがおおむね平坦である。覆土は５層に分層され、自然堆積と思われる。

出土遺物はないが、本遺跡からは、僅少ながら縄文時代前期末葉～中期初頭の土器片（第９図１～15）が出土しており、本遺構も同様の帰属時期が想定されよう。

第２号土坑（SK-02、第６図）

Ｂ－４およびＣ－３・４グリッドに位置する。平面は両端の広がる溝状（不整長楕円形）を呈し、規模は長軸296cm×短軸56cm×深さ93cmを測る。いわゆるダンベル状Ｔピットと呼ばれる溝状土坑であり、断面は上位のみ緩やかに外傾し、下位はほぼ垂直および内傾して立ち上がる。底面はおおむね平坦である。覆土は５層に分層され、自然堆積と思われる。

出土遺物はないが、第１号土坑と同様の帰属時期が推定されよう。

第３号土坑（SK-03、第６図）

Ｄ・Ｅ－11グリッドに位置する。平面は両端が先細りになる溝状（長楕円形）を呈し、規模は長軸330cm×短軸94cm×深さ154cmを測る。いわゆるＴピットと呼ばれる溝状土坑であり、断面は上位のみ緩やかに外傾し、下位はほぼ垂直に立ち上がる。底面はおおむね平坦である。覆土は７層に分層され、自然堆積と思われる。

出土遺物はないが、第１号土坑と同様の帰属時期が推定されよう。

第４号土坑（SK-04、第６図）

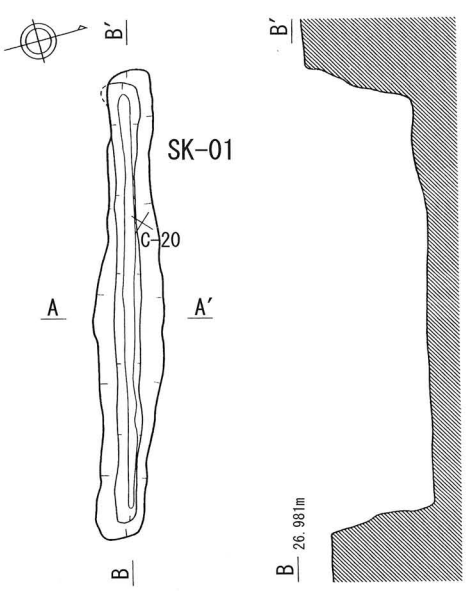
Ｄ・Ｅ－12グリッドに位置する。平面は両端が先細りになる溝状（長楕円形）を呈し、規模は長軸362cm×短軸77cm×深さ133cmを測る。いわゆるＴピットと呼ばれる溝状土坑であり、断面は上位のみ緩やかに外傾し、下位はほぼ垂直に立ち上がる。底面はおおむね平坦である。覆土は６層に分層され、自然堆積と思われる。

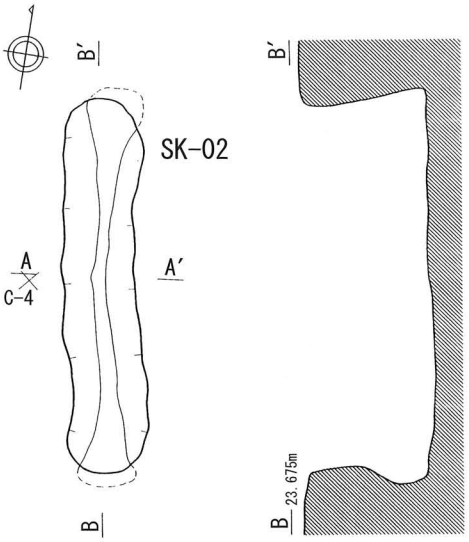
出土遺物はないが、やはり第１号土坑と同様の帰属時期が推定されよう。

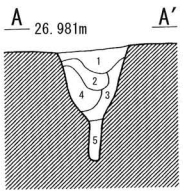
第５号土坑（SK-05、第７図）

Ｂ・Ｃ－３グリッドに位置する。平面はやや隅丸方形を呈し、規模は長軸123cm×短軸112cm×深さ25cmを測る。覆土中には炭化材が多量に混在しており、底面付近には僅かに被熱痕が観察された。断面はほぼ垂直に立ち上がり、底面はおおむね平坦である。覆土は５層に分層されるが、覆土下位には薄い白灰色土層（10ＹＲ7/2にぶい黄橙色土）があり、視認による推定ではあるが、おそらく十和田ａ火山灰（Ｔｏ－ａ）層と思われる。

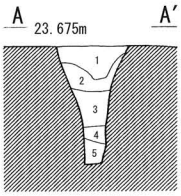
出土遺物はないが、遺構の様相ならびに降下火山灰の混入などから平安時代中頃（10世紀初頭）の製炭土坑と考えられよう。



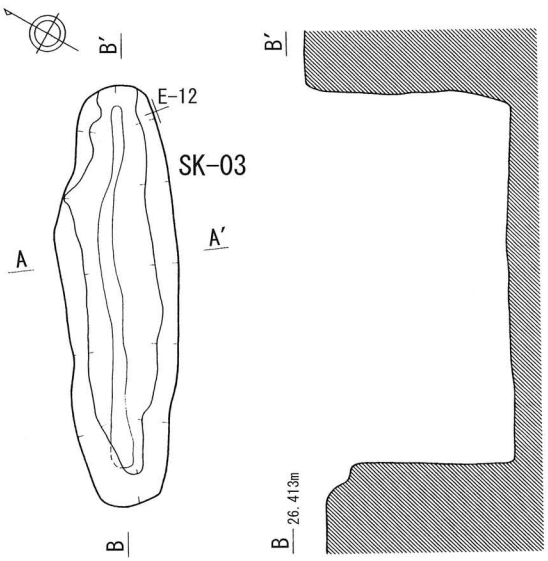


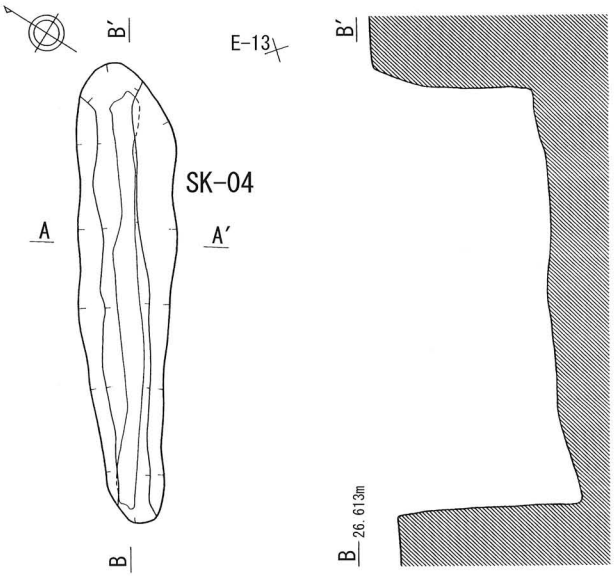


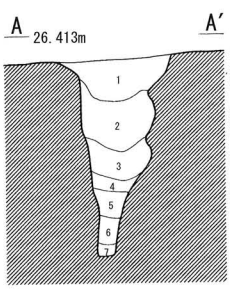
ＳＫ－０１
第１層　黒 色 土(10YR1.7/1)　ローム粒(φ1～2mm) 微量、炭化粒(φ1～2mm) 微量、焼土粒(φ1～2mm) 微量
第２層　黒 色 土(10YR2/1)　ローム粒(φ1～5mm) 微量
第３層　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒(φ1～5mm) 多量、炭化粒(φ1～2mm) 微量、焼土粒(φ1～2mm) 微量、黄褐色土(10YR5/6) 中量含む
第４層　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒(φ1～5mm) 少量
第５層　黄褐色土(10YR5/6)・褐色土(10YR4/6)　混合土



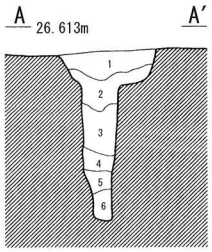
ＳＫ－０２
第１層　黒 色 土(10YR2/1)　ローム粒(φ1～5mm) 微量、炭化粒(φ1～2mm) 極微量
第２層　黒 褐 色 土(10YR2/2)　ローム粒(φ1～5mm) 少量、炭化粒(φ1mm) 極微量
第３層　黒 褐 色 土(10YR2/2)　ローム粒(φ1～10mm) 中量、炭化粒(φ1mm) 極微量、明黄褐色土(10YR6/8) 少量含む
第４層　明黄褐色土(10YR6/8)・黒色土(10YR2/1)　混合土
第５層　黒 色 土(10YR1.7/1)　ローム粒(φ1～5mm) 少量



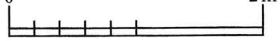




ＳＫ－０３
第１層　黒 色 土(10YR1.7/1)　ローム粒(φ2～5mm) 少量
第２層　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒(φ1～5mm) 少量、ロームブロック(φ10mm) 微量
第３層　黒褐色土(10YR3/2)・褐色土(10YR4/6)　混合土
第４層　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒(φ2～5mm) 中量、ロームブロック(φ50～100mm) 中量
第５層　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒(φ1～2mm) 少量、ロームブロック(φ50～100mm) 中量
第６層　黄褐色土(10YR5/6)
第７層　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒(φ1～2mm) 微量



ＳＫ－０４
第１層　黒 色 土(10YR1.7/1)　ローム粒(φ1～10mm) 微量
第２層　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒(φ1～5mm) 少量、ロームブロック(φ10～50mm) 少量
第３層　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒(φ1～5mm) 少量
第４層　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒(φ1～5mm) 少量、ロームブロック(φ50～100mm) 中量
第５層　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒(φ1～5mm) 少量
第６層　褐 色 土(10YR4/6)



第６図　土坑（１）

第６号土坑（SK-06、第７図）

Ｃ－９グリッドに位置する。平面は不整円形を呈し、規模は長軸87cm×短軸85cm×深さ11cmを測る。断面は急角度に立ち上がり、底面には緩やかな凹凸がある。覆土は１層であり、現代のものと思われる撹乱層である。苗木等、リンゴ果樹園に関わる現代遺構の可能性が高いが、時期不明の土坑としておく。

第７号土坑（SK-07、第７図）

Ｃ－８・９グリッドに位置する。平面は不整円形を呈し、規模は長軸95cm×短軸92cm×深さ11cmを測る。断面は急角度に立ち上がり、底面には緩やかな凹凸がある。覆土は２層に分層されるが、現代のものと思われる撹乱層である。第６号土坑同様、苗木等、リンゴ果樹園に関わる現代遺構の可能性が高いが、時期不明の土坑としておく。

第８号土坑（SK-08、第７図）

Ｃ－８グリッドに位置する。平面は不整円形を呈し、規模は長軸75cm×短軸74cm×深さ14cmを測る。断面は急角度に立ち上がり、底面には緩やかな凹凸がある。覆土は１層であり、現代のものと思われる撹乱層である。第６号土坑同様、リンゴ果樹園に関わる現代遺構の可能性が高いが、時期不明の土坑としておく。

第９号土坑（SK-09、第７図）

Ｃ－10グリッドに位置する。平面は不整円形を呈し、規模は長軸77cm×短軸68cm×深さ14cmを測る。断面は急角度に立ち上がり、底面には緩やかな凹凸がある。覆土は１層であり、現代のものと思われる撹乱層である。第６号土坑同様、リンゴ果樹園に関わる現代遺構の可能性が高いが、時期不明の土坑としておく。

第10号土坑（SK-10、第７図）

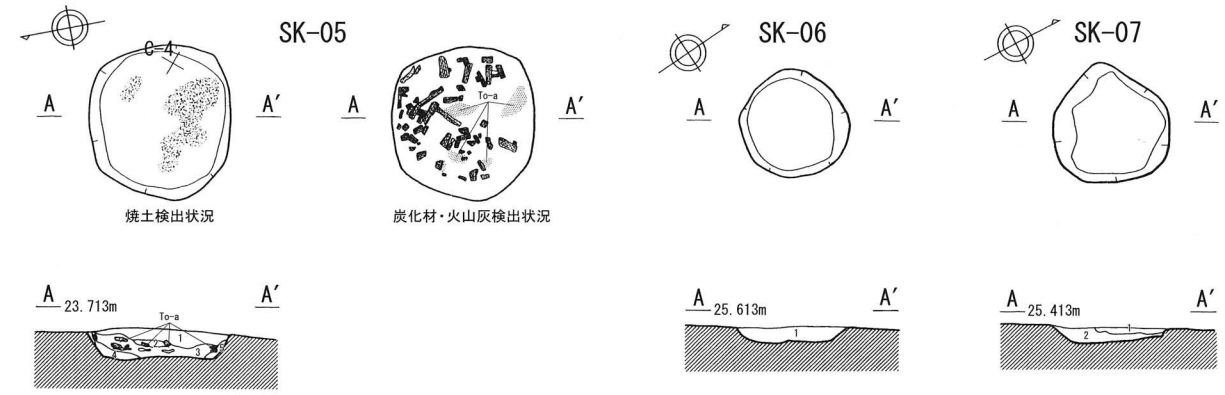
Ｃ－10グリッドに位置する。平面は不整円形を呈し、規模は長軸90cm×短軸84cm×深さ22cmを測る。断面は急角度に立ち上がり、底面には緩やかな凹凸がある。覆土は１層であり、現代のものと思われる撹乱層である。第６号土坑同様、リンゴ果樹園に関わる現代遺構の可能性が高いが、時期不明の土坑としておく。

第11号土坑（SK-11、第７図）

Ｂ－７グリッドに位置する。平面は不整円形を呈し、規模は長軸82cm×短軸58cm×深さ16cmを測る。断面は急角度に立ち上がり、底面には緩やかな凹凸がある。覆土は１層であり、現代のものと思われる撹乱層である。覆土上位より縄文土器１点（第９図１）が出土しているが、周辺からの流れ込みであろう。第６号土坑同様、リンゴ果樹園に関わる現代遺構の可能性が高いが、時期不明の土坑としておく。

第12号土坑（SK-12、第７図）

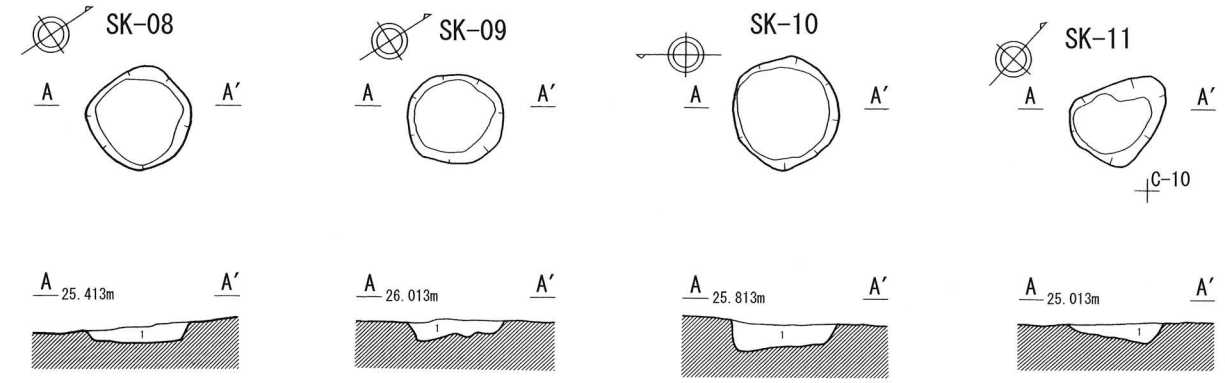
Ｃ・Ｄ－９・10グリッドに位置する。平面は不整円形を呈し、規模は長軸98cm×短軸76cm×深さ７cmを測る。断面は急角度に立ち上がり、底面には緩やかな凹凸がある。覆土は１層であり、現代のものと思われる撹乱層である。第６号土坑同様、リンゴ果樹園に関わる現代遺構の可能性が高いが、時期不明の土坑としておく。



ＳＫ－０５
第１層　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒(φ1～2mm) 微量、炭化粒(φ1～5mm) 微量、炭化材少量混在
第２層　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒(φ1～5mm) 少量、炭化粒(φ1～5mm) 微量、炭化材少量混在
第３層　黒 色 土(10YR2/1)　ローム粒(φ1～2mm) 微量、炭化材多量混在、にぶい黄橙色土層(10YR 7/2、To-aか)含む
第４層　黒 色 土(10YR1.7/1) ローム粒(φ1～5mm) 少量、炭化粒(φ1～2mm) 少量、炭化材少量混在
第５層　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒(φ1～2mm) 微量、炭化材微量混在

ＳＫ－０６
第１層　黒褐色土(10YR2/2)　ロームブロック(φ10～20mm) 中量

ＳＫ－０７
第１層　黒 色 土(10YR2/1)　ロームブロック(φ10～20mm) 微量、褐色土(10YR4/6) 少量含む
第２層　褐 色 土(10YR4/4)・褐色土(10YR4/6)　混合土

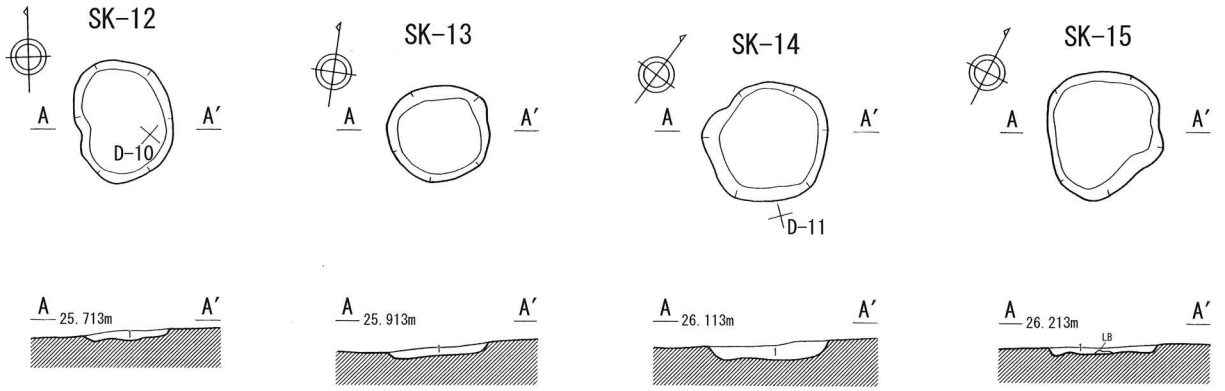


ＳＫ－０８
第１層　黒褐色土(10YR2/2)　ロームブロック(φ10～50mm) 中量

ＳＫ－０９
第１層　黒褐色土(10YR2/2)　ロームブロック(φ10～50mm) 中量、炭化粒(φ1～5mm) 微量

ＳＫ－１０
第１層　黒褐色土(10YR2/2)　ロームブロック(φ10～30mm) 少量

ＳＫ－１１
第１層　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロック(φ10～30mm) 少量、炭化粒(φ1～2mm) 極微量



ＳＫ－１２
第１層　黒褐色土(10YR2/2)・暗褐色土(10YR3/4)　混合土、ロームブロック(φ10～30mm)少量

ＳＫ－１３
第１層　黒褐色土(10YR2/3)・褐色土(10YR4/6)　混合土、ローム粒(φ2～10mm)少量

ＳＫ－１４
第１層　黒褐色土(10YR2/3)・暗褐色土(10YR3/4)　混合土、ローム粒(φ1～5mm)少量、炭化粒(φ1～5mm)微量

ＳＫ－１５
第１層　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒(φ1～10mm)中量、炭化粒(φ5～10mm)微量

0　2m

第７図　土坑（２）

第13号土坑（SK-13、第７図）

Ｃ・Ｄ－10グリッドに位置する。平面は不整円形を呈し、規模は長軸81cm×短軸76cm×深さ６cmを測る。断面は急角度に立ち上がり、底面には緩やかな凹凸がある。覆土は１層であり、現代のものと思われる撹乱層である。第６号土坑同様、リンゴ果樹園に関わる現代遺構の可能性が高いが、時期不明の土坑としておく。

第14号土坑（SK-14、第７図）

Ｃ・Ｄ－10グリッドに位置する。平面は不整円形を呈し、規模は長軸98cm×短軸92cm×深さ14cmを測る。断面は急角度に立ち上がり、底面には緩やかな凹凸がある。覆土は１層であり、現代のものと思われる撹乱層である。第６号土坑同様、リンゴ果樹園に関わる現代遺構の可能性が高いが、時期不明の土坑としておく。

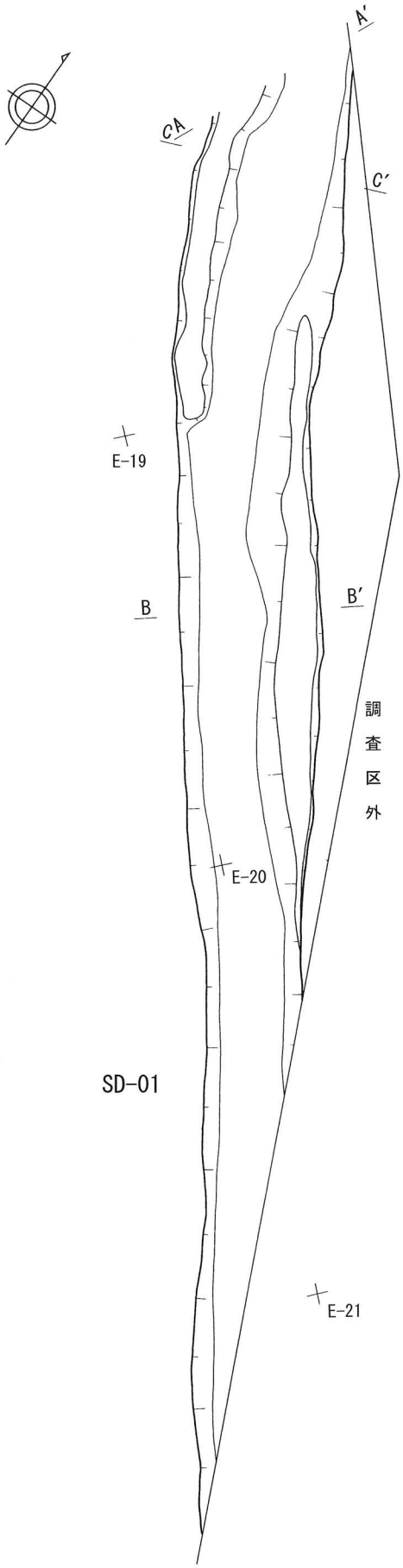
第15号土坑（SK-15、第７図）

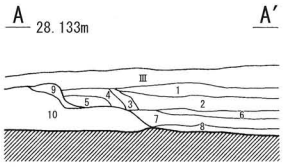
Ｃ・Ｄ－11グリッドに位置する。平面は不整円形を呈し、規模は長軸101cm×短軸87cm×深さ６cmを測る。断面は急角度に立ち上がり、底面には緩やかな凹凸がある。覆土は１層であり、現代のものと思われる撹乱層である。第６号土坑同様、リンゴ果樹園に関わる現代遺構の可能性が高いが、時期不明の土坑としておく。

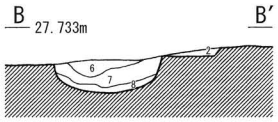
第２節　溝跡

第１号溝跡（SD-01、第８図）

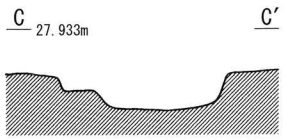
Ｄ－19～21およびＥ－18～20グリッドに位置する。平面は東側へ僅かに曲がりながら南北方向にそれぞれ調査区外にまで延びている。規模は現存長13.5m×最大幅0.95m×深さ0.25mを測る。断面は整った弧状を呈し、本来の深さは0.5m内外と推定される。覆土は10層に分層されたが、実際の溝跡の覆土は１～３・６～８層であろう。下位に砂質の土層が多く観察されることから水路として使用されたものと思われる。本遺跡の調査区南端南側から東側に向かって流れる農業用水路（惣四郎堰）に沿うように占地しており、江戸時代後期に開削されたという農業用水路の古い流れである可能性が高い。史料によれば、当初の堰幅は二尺であったといい、本遺構の方が若干大きいが、正確な計測値ではないものと思われる（山上1955）。また、本遺構は遺跡現状であったリンゴ果樹園の樹木に切られており、果樹園が作られる以前の遺構である。地元住民もよく知らないとのことであり、農業用水路の流れが変わったのは、おそらく近代以前であろうと推定される。







ＳＤ－０１
第１層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒（φ1～10㎜）微量、炭化粒（φ1～2㎜）微量
第２層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ1～5㎜）微量、炭化粒（φ1～2㎜）微量
第３層　黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒（φ1～5㎜）少量
第４層　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒（φ1～10㎜）中量、炭化粒（φ1～2㎜）微量
第５層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（1～5㎜）微量、ロームブロック（φ10～20㎜）微量、炭化粒（φ1～2㎜）微量
第６層　黒褐色土（10YR2/3）　砂質土、ローム粒（φ1～5㎜）少量
第７層　黒褐色土（10YR2/3）　砂質土、ローム粒（φ1～5㎜）微量
第８層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒（φ1～5㎜）微量、ロームブロック（φ10～30㎜）少量
第９層　暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒（φ1～5㎜）中量、炭化粒（φ1～2㎜）微量
第10層　褐　色　土（10YR4/4）・黒褐色土（10YR2/2）　混合土、ロームブロック（φ10～50㎜）中量



第８図　溝跡

第３節　出土遺物

１．縄文土器

遺構内（SK-11）から１点（第９図１）、遺構外から14点の縄文土器が出土した（第９図２～15）。すべて破片資料であり、摩滅の著しいものもある。大きく分けて縄文時代前期末葉の円筒下層ｄ式（第９図１・２・４～７）と縄文時代中期初頭の円筒上層ａ式（第９図３・８～15）に分類できるが、縄文のみが施文された破片資料の型式認定は判然としない。なお、円筒上層ａ式の資料はすべて近接した場所からの出土であり、同一個体の可能性が高い。詳細は観察表（第２表）を参照されたい。

２．近現代の遺物

近現代陶器が２点（第９図16・17）と煙管の雁首が１点（第９図18）出土している。第９図16は備前焼模倣の水瓶と思われ、内面には整形時の粗い調整痕が観察される。第９図17は備前焼模倣の擂鉢と思われ、内面に櫛目（擂り目）が充填されている。ともに大量生産品であろう。

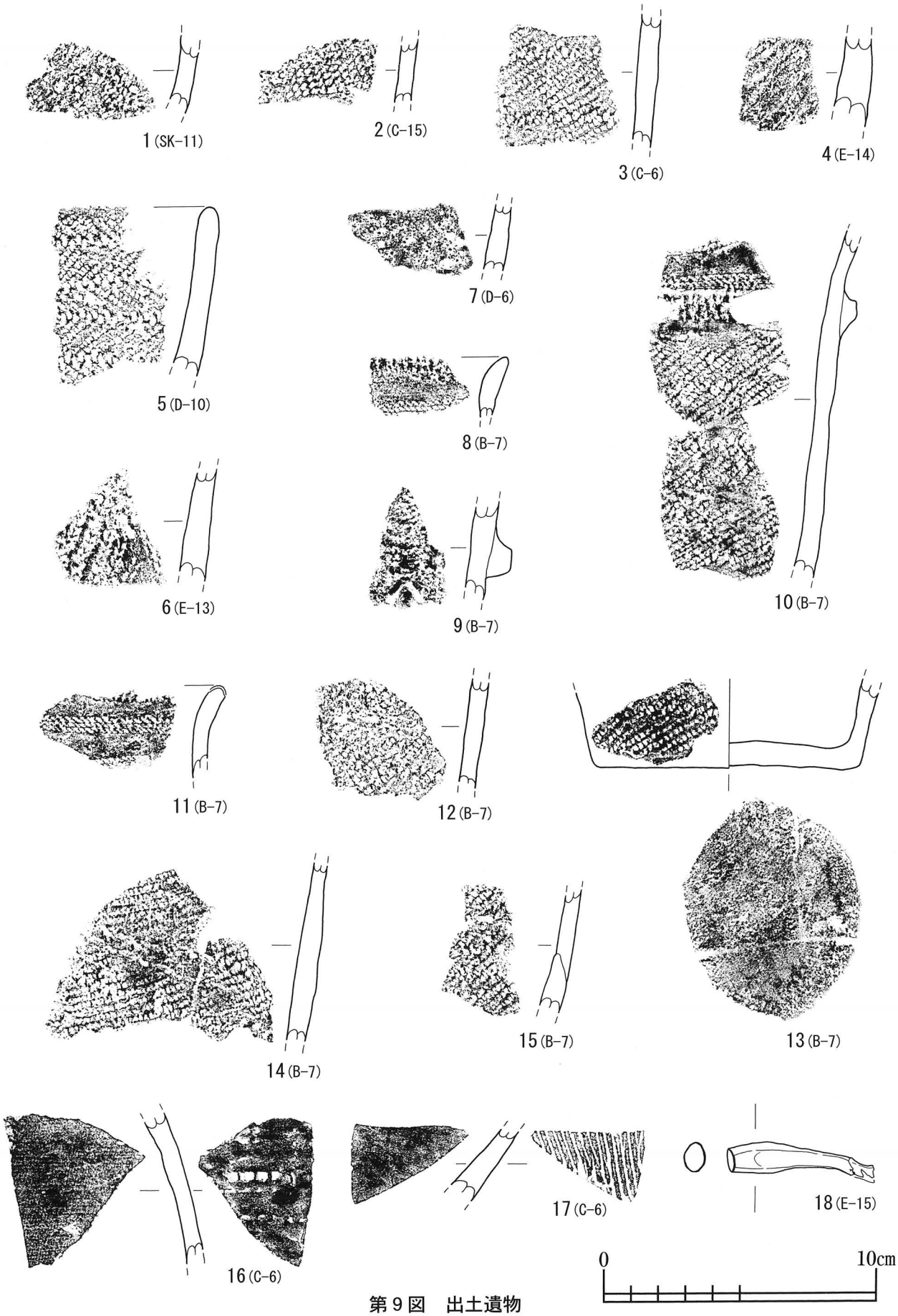
煙管雁首は真鍮製で現存長5.4cm、現存幅0.8cm、重量４ｇを測る。全体的に潰れており、先端部（火皿）を欠損する。すべて昭和時代前半の所産と思われる。

（野坂　知広）

第２表　出土遺物観察一覧

図版番号	器　種	出土位置	層　位	部　位	文　様	時　期	備　考
第9図1	深鉢	SK－11	1層	胴部	RL	円筒下層d式	繊維混入
第9図2	深鉢	C－15	Ⅱ層	胴部	RL	円筒下層d式	繊維混入
第9図3	深鉢	C－6	Ⅱ層	胴部	結束第一種（LR）	円筒上層a式	第9図8～15と同一個体
第9図4	深鉢	E－14	Ⅱ層	胴部	L単軸絡条体第1類	円筒下層d式	
第9図5	深鉢	D－10	Ⅱ層	口縁部	結束第一種（RL・LR）	円筒下層d式	繊維混入
第9図6	深鉢	E－13	Ⅱ層	胴部	L単軸絡条体第1A類	円筒下層d式	繊維混入
第9図7	深鉢	D－6	Ⅱ層	胴部	L単軸絡条体第1類	円筒下層d式	
第9図8	深鉢	B－7	Ⅲ層	口縁部	口唇部：撚糸押圧、口縁部：撚糸押圧	円筒上層a式	第9図3・9～15と同一個体
第9図9	深鉢	B－7	Ⅲ層	胴部	隆帯：撚糸押圧、口縁部：撚糸押圧	円筒上層a式	第9図3・8・10～15と同一個体
第9図10	深鉢	B－7	Ⅲ層	胴部	口縁部：撚糸押圧、隆帯：撚糸押圧、胴部：結束第1種（LR）	円筒上層a式	第9図3・8・9・11～15と同一個体
第9図11	深鉢	B－7	Ⅲ層	口縁部	口唇部：撚糸押圧、口縁部：撚糸押圧	円筒上層a式	第9図3・8～10・12～15と同一個体
第9図12	深鉢	B－7	Ⅲ層	胴部	LR	円筒上層a式	第9図3・8～11・13～15と同一個体
第9図13	深鉢	B－7	Ⅲ層	底部	胴部：結束第一種（LR）、底部：ケズリ調整	円筒上層a式	第9図3・8～12・14・15と同一個体
第9図14	深鉢	B－7	Ⅲ層	胴部	LR	円筒上層a式	第9図3・8～13・15と同一個体
第9図15	深鉢	B－7	Ⅲ層	胴部	LR	円筒上層a式	第9図3・8～14と同一個体

図版番号	種　別	出土位置	層　位	詳　細	時　期	備　考
第9図16	水瓶	E－15	第Ⅰ層	胴部：備前焼模倣品か	近代以降	
第9図17	擂鉢	C－6	第Ⅰ層	体部：擂り目充填、備前焼模倣品か	近代以降	
第9図18	煙管雁首	C－6	第Ⅰ層	真鍮製、先端部（火皿）欠損、現存長5.4cm、現存幅0.8cm、重量4g	近代以降	


1 (SK-11)
2 (C-15)
3 (C-6)
4 (E-14)
5 (D-10)
7 (D-6)
8 (B-7)
6 (E-13)
9 (B-7)
10 (B-7)
11 (B-7)
12 (B-7)
14 (B-7)
15 (B-7)
13 (B-7)
16 (C-6)
17 (C-6)
18 (E-15)
0
10cm

第９図　出土遺物

ま と め

大矢沢野田遺跡は、青森市大字大矢沢字野田・字里見および幸畑１丁目地内に所在している。今回、市道筒井幸畑団地線道路整備事業における墓地移転工事に先立ち、平成20年６月３日～８月11日の日程で造成予定地を対象に発掘調査を実施した（1,003㎡）。調査の結果、縄文時代の土坑４基、平安時代の土坑１基、江戸時代の溝跡１条、時期不明の土坑10基を検出したほか、遺構外が主体ではあるが、15片の縄文土器（前期末葉～中期初頭）等が出土した。

いわゆるＴピットと呼ばれる溝状土坑が４基（第１号～第４号土坑）検出されているが、沢のように若干落ち込んでいる調査区の西側に向かって主軸方向が統一されており、特に、第１号・第２号・第４号土坑はその延長線上で交差するほどである。平成11年度発掘調査範囲Ｃ地区（南側地区）における溝状土坑（SK-03）とも共通する傾向であろう。やはりこれは狩猟用陥穴と考えられ、想像の域を出ないが沢周辺（水場）から放射状に延びる獣道に沿って縦方向に掘られたものであろうか。また、２基並んで検出された第３号土坑と第４号土坑は、構築時期に関連があると思われる。

第５号土坑は、平安時代の製炭土坑と思われ、同様の事例は葛野遺跡群（葛野（１）・（２）・（３）遺跡）や野木（１）遺跡などで多く検出されている（青森市教育委員会2001ａ・2008ａ）。化学分析をしていないため視認による推定ではあるが、覆土中から層状に確認された十和田ａ火山灰（Ｔｏ－ａ）は、西暦915年（延喜15年）頃に降下したと考えられており、本土坑の廃絶時期もその直後と思われる。

縄文時代、平安時代を通じて、本調査区は集落中心域から外れた区域に当たるものと考えられる。また、本遺跡における平成11年度発掘調査範囲Ｃ地区（南側地区）と今回の調査区は、ともに南側丘陵部に占地しており、平野部・丘陵縁辺部とは様相の異なる区域として認識されるべきであろう。

第１号溝跡は、地元住民から愛着をもって“惣四郎堰（そうしろうぜき）”と呼ばれる農業用水路の古い流れと推定され、当地における開拓や農業振興にも深く関わる遺構である。実態は不明であるが、惣四郎堰当初の姿を残したものとすれば、その歴史的意義はなお大きい。江戸時代後期、私財を投じて灌漑用水を整備した千葉惣四郎の遺徳が偲ばれるところであろう。現在、コンクリートで周囲を固められながらも、その流れは澱むことなく周辺下流の美田を潤し続けている。水が、氏の真心を伝えているのである。

最後になりましたが、埋蔵文化財保護の趣旨をご理解いただき、発掘調査実施にあたりご協力賜った関係機関・関係各位に対しまして厚くお礼申し上げます。

（担当者一同）

引用・参考文献

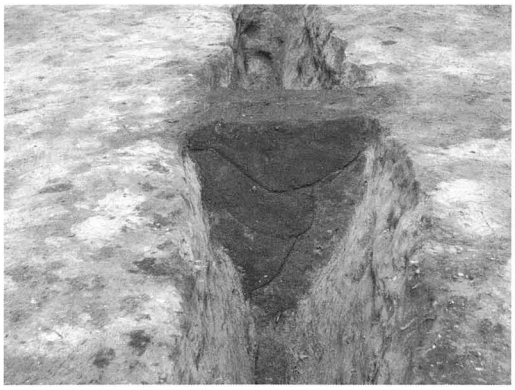
青森県教育委員会　1980　『熊沢遺跡』
青森県教育委員会　1983　『和野前山遺跡』
青森県教育委員会　1985　『表館遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
青森県教育委員会　1996　『三内丸山遺跡Ⅵ』
青森県教育委員会　1999　『大矢沢野田（1）遺跡発掘調査報告書』
青森県教育委員会　2000　『青森市横内川遊水地埋没林調査報告書』
青　森　市　2006　『新青森市史』資料編１（考古）
青森市教育委員会　1965　『四ツ石遺跡調査概報』
青森市教育委員会　1979　『蛍沢遺跡』
青森市教育委員会　1987　『横内城跡発掘調査報告書』
青森市教育委員会　1995ａ　『横内遺跡・横内（2）遺跡発掘調査報告書』
青森市教育委員会　1995ｂ　『桜峯（2）遺跡発掘調査報告書』
青森市教育委員会　2000　『大矢沢野田（1）遺跡調査報告書』
青森市教育委員会　2001ａ　『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅱ・野木遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
青森市教育委員会　2001ｂ　『大矢沢野田（1）遺跡発掘調査概報Ⅱ』
青森市教育委員会　2002　『大矢沢野田（1）遺跡発掘調査報告書』
青森市教育委員会　2003　『市内遺跡発掘調査報告書11』
青森市教育委員会　2005　『合子沢松森（2）遺跡発掘調査概報』
青森市教育委員会　2006　『合子沢松森（2）遺跡発掘調査概報Ⅱ』
青森市教育委員会　2007　『合子沢松森（2）遺跡発掘調査報告書』
青森市教育委員会　2008ａ　『葛野遺跡群発掘調査報告書』
青森市教育委員会　2008ｂ　『市内遺跡発掘調査報告書16』
青森市教育委員会　2009　『阿部野（1）遺跡発掘調査報告書』
青森山田高校考古学研究会　1987　『青森市四ツ石遺跡調査報告』
葛　西　勵　1978　「青森市阿部野遺跡出土の縄文時代早期の土器」『うとう』第85号
成　田　滋　彦　1982　「青森市四ツ石（2）遺跡について」『遺址』第２号
日本考古学協会　1976　『日本考古学年報』27（1974年版）
藤　田　亮　一　1975　「青森市内出土の早期縄文式土器片」『うとう』第81号
町田洋・新井房夫　2003　『新編火山灰アトラス』　東京大学出版会
三　宅　徹　也　1972　「四ツ石遺跡出土遺物から（一）」『うとう』第78号
三　宅　徹　也　1981　「円筒土器」『縄文文化の研究』３　雄山閣
武　藤　康　弘　1989　「東北地方北部の縄文前期土器群の編年学的研究－表館式、早稲田６類土器をめぐって－」『考古学雑誌』第74巻２号
村　越　潔　1974　『円筒土器文化』　雄山閣
山上清松編　1955　『横内村誌』　横内公民館
山　内　清　男　1979　『日本先史土器の縄紋』　先史考古学会

写　真　図　版

西側調査区全景（北西→）

東側調査区全景（北西→）

写真１　検出遺構（１）

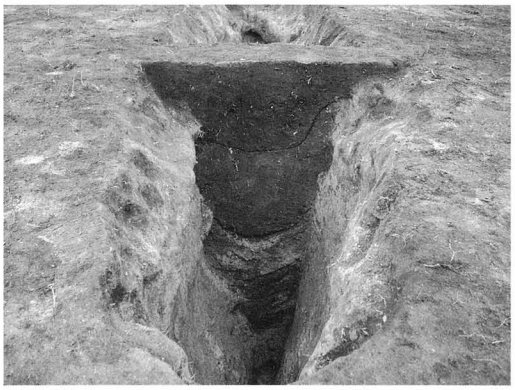


SK－01セクション（南東→）

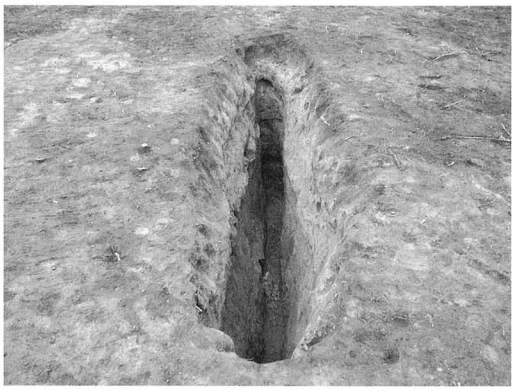
SK－01完掘（南東→）

SK－02セクション（南西→）

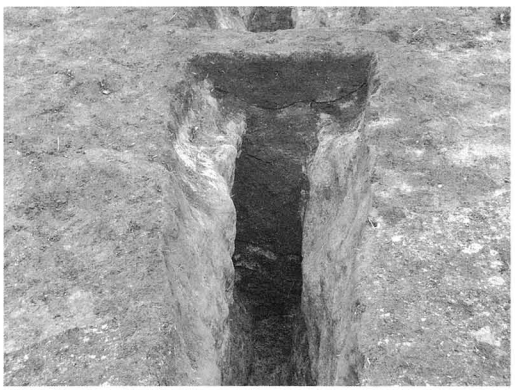
SK－02完掘（北東→）



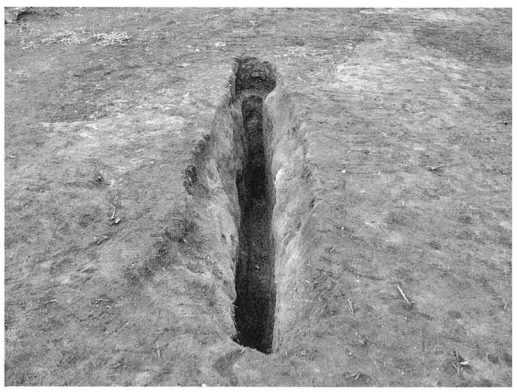
SK－03セクション（東→）



SK－03完掘（東→）



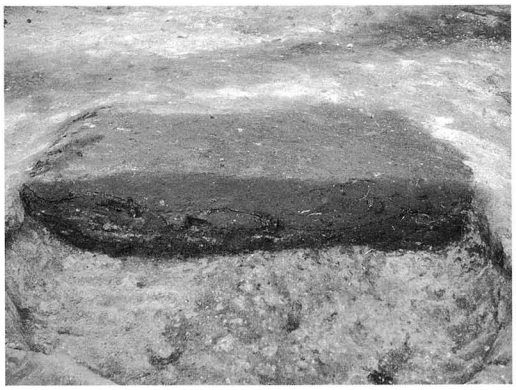
SK－04セクション（西→）



SK－04完掘（東→）

写真２　検出遺構（２）

SK－03・04完掘（東→）

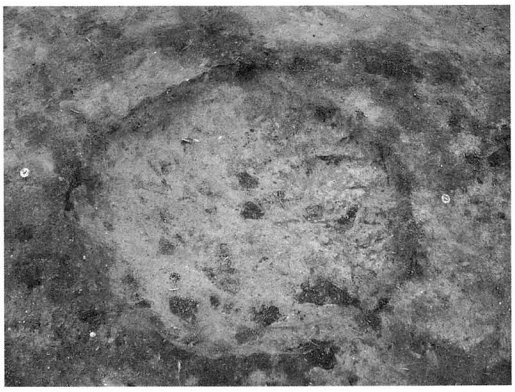


SK－05セクション（北西→）

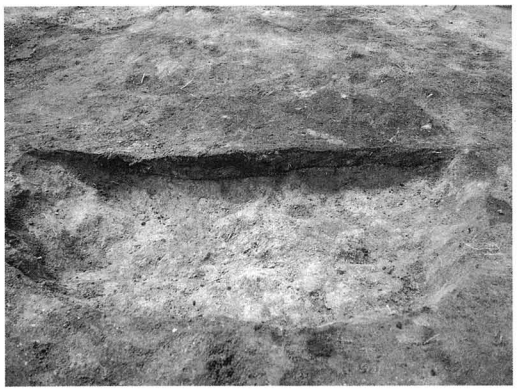
SK－05炭化材（北西→）

SK－05完掘（南東→）

SK－06セクション（南東→）



SK－06完掘（南東→）



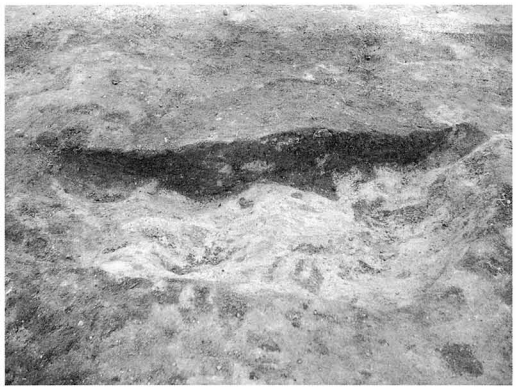
SK－07セクション（南東→）

SK－07完掘（南東→）

写真３　検出遺構（３）

SK－08セクション（西→）

SK－08完掘（西→）

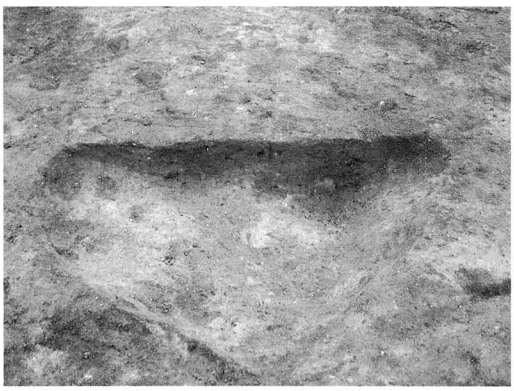


SK－09セクション（南東→）

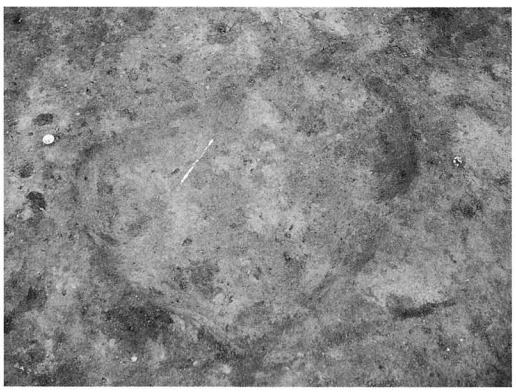
SK－09完掘（南東→）

SK－10セクション（南東→）

SK－10完掘（南東→）



SK－11セクション（南東→）



SK－11完掘（南東→）

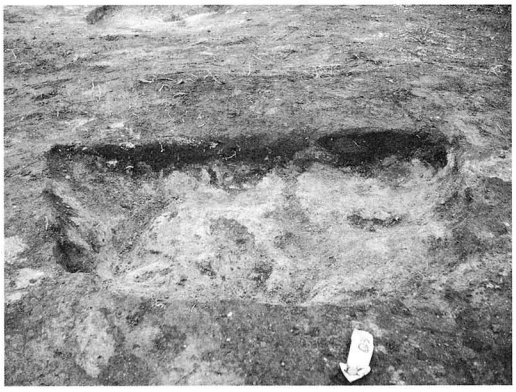
写真４　検出遺構（４）

SK－12セクション（南→）

SK－12完掘（東→）

SK－13セクション（南→）

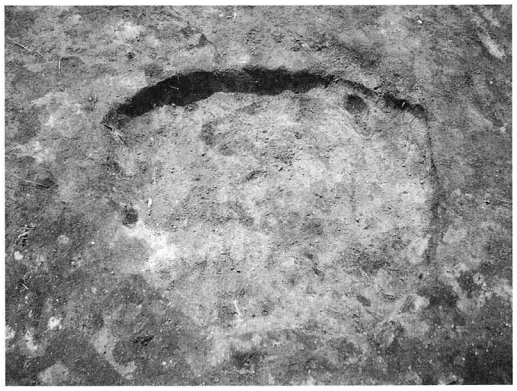
SK－13完掘（東→）



SK－14セクション（南→）

SK－14完掘（東→）

SK－15セクション（南→）

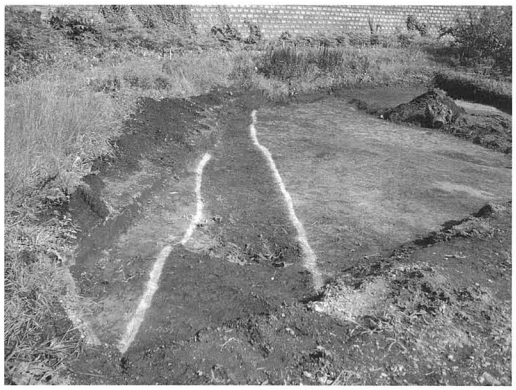


SK－15完掘（東→）

写真５　検出遺構（５）

SK－06～08完掘（東→）

SK－12～15完掘（南→）

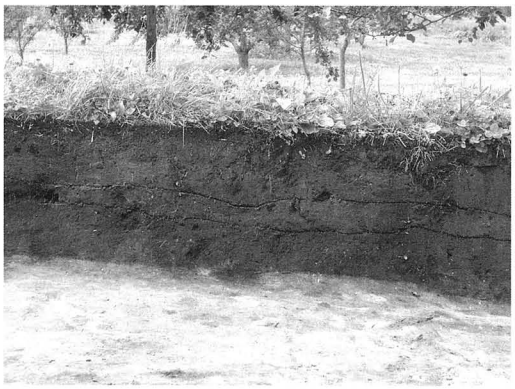


SD－01プラン（北→）

SD－01完掘（北→）

SD－01セクション①（南→）

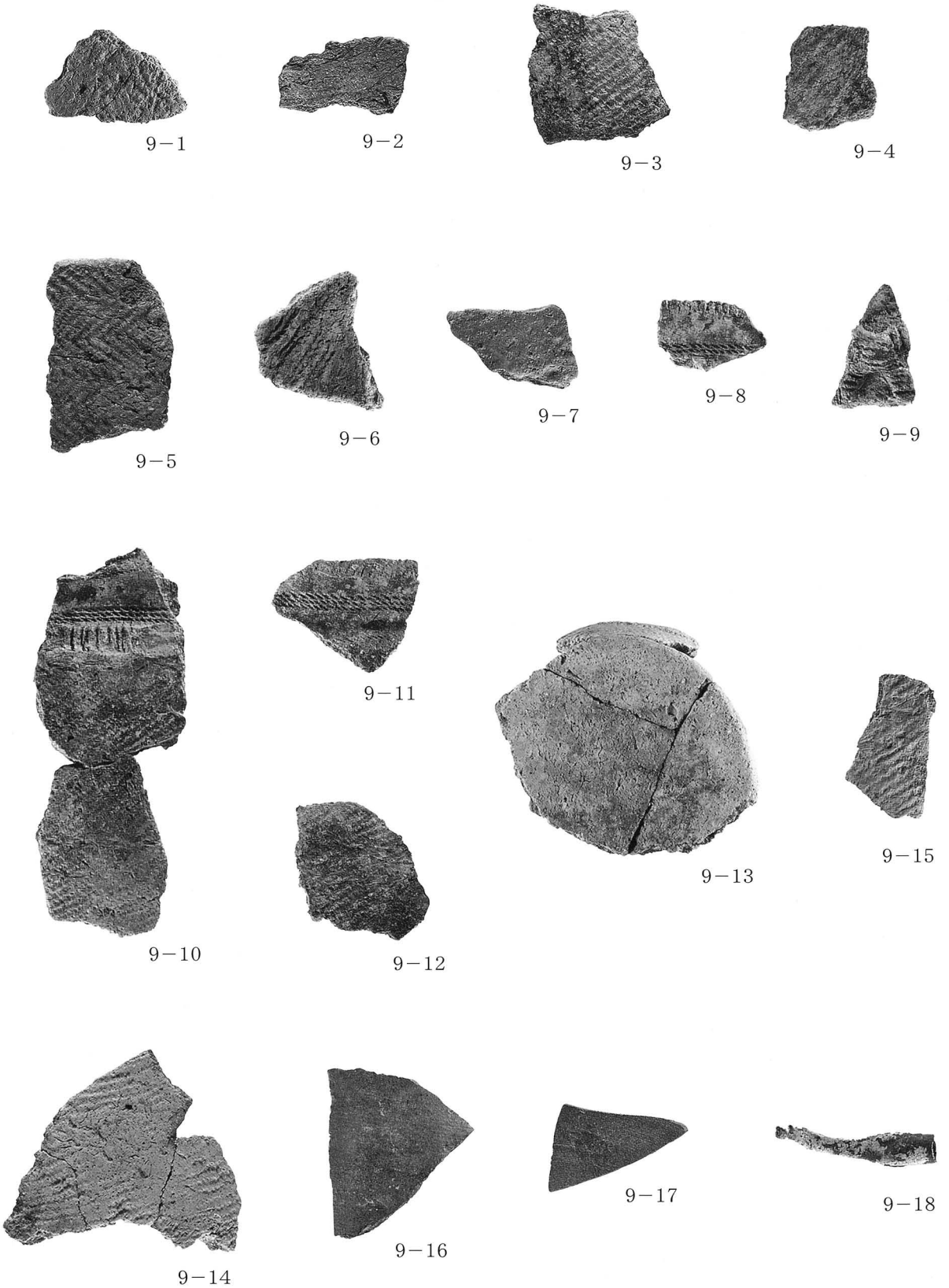
SD－01セクション②（南→）



基本層序（北東→）

整備作業風景（南東→）

写真６　検出遺構（６）



（S＝1／2）

写真７　出土遺物

報告書抄録

ふりがな	おおやさわのだいせきはっくつちょうさほうこくしょⅡ
書名	大矢沢野田遺跡発掘調査報告書Ⅱ
副書名	
巻次	
シリーズ名	青森市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第101集
編著者名	設楽政健、野坂知広
編集機関	青森市教育委員会
所在地	〒038-8505　青森県青森市柳川二丁目1番1号　TEL017－761－4796
発行年月日	西暦2009年３月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		世界測地系（JGD2000）		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
大矢沢野田遺跡（おおやさわのだいせき）	青森県青森市（あおもりけんあおもりし） 幸畑１丁目（こうばた）ほか	02201	01292	40° 47′ 07″	140° 53′ 14″	20080603 ～ 20080811	1,003㎡	墓地移転工事に先立つ事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大矢沢野田遺跡	散布地	縄文時代	土坑　15基 溝跡　１条	縄文土器	

要約	１．大矢沢野田遺跡（今回の調査区）は、横内川右岸の台地（微高丘陵）上、標高30m内外の地点に位置している。 ２．発掘調査は墓地移転造成予定地1,003㎡を対象に実施した。 ３．調査の結果、縄文時代の土坑４基・平安時代の土坑１基・江戸時代の溝跡１条・時期不明の土坑10基を検出した。主体時期は縄文時代前期末葉～中期初頭である。

既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

青森市の文化財	1	1962	『三内霊園遺跡調査概報』
〃	2	1965	『四ツ石遺跡調査概報』
〃	3	1967	『玉清水遺跡調査概報』
〃	4	1970	『三内丸山遺跡調査概報』
〃	5	1971	『野木和遺跡調査報告書』
〃	6	1971	『玉清水Ⅲ遺跡発掘調査報告書』
〃	7	1971	『大浦遺跡調査報告書』
〃	8	1973	『孫内遺跡発掘調査報告書』
		1979	『蛍沢遺跡』
		1983	『四戸橋遺跡調査報告書』
青森市の埋蔵文化財		1983	『山野峠遺跡』
		1985	『長森遺跡発掘調査報告書』
		1986	『田茂木野遺跡発掘調査報告書』
		1987	『横内城跡発掘調査報告書』
		1988	『三内丸山Ⅰ遺跡発掘調査報告書』
青森市埋蔵文化財調査報告書			
〃	第16集	1991	『山吹(1)遺跡発掘調査報告書』
〃	第17集	1992	『埋蔵文化財出土遺物調査報告書』
〃	第18集	1993	『三内丸山(2)遺跡発掘調査概報』
〃	第19集	1993	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	第20集	1993	『小牧野遺跡発掘調査概報』
〃	第21集	1994	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第22集	1994	『小三内遺跡発掘調査報告書』
〃	第23集	1994	『三内丸山(2)・小三内遺跡発掘調査報告書』
〃	第24集	1995	『横内遺跡・横内(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第25集	1995	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第26集	1995	『桜峯(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第27集	1996	『桜峯(1)遺跡発掘調査概報』
〃	第28集	1996	『三内丸山(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第29集	1996	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第30集	1996	『小牧野遺跡発掘調査報告書』
〃	第31集	1997	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第32集	1997	『桜峯(1)遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃	第33集	1997	『新町野遺跡試掘調査報告書』
〃	第34集	1997	『葛野(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第35集	1997	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃	第36集	1998	『桜峯(1)遺跡発掘調査報告書』
〃	第37集	1998	『新町野遺跡発掘調査報告書』
〃	第38集	1998	『野木遺跡発掘調査報告書』
〃	第39集	1998	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第40集	1998	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
〃	第41集	1998	『野木遺跡発掘調査概報』
〃	第42集	1998	『熊沢遺跡発掘調査概報』
〃	第43集	1999	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第44集	1999	『葛野(2)遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃	第45集	1999	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
〃	第46集	1999	『新町野・野木遺跡発掘調査概報』
〃	第47集	1999	『稲山遺跡発掘調査概報』
〃	第48集	2000	『熊沢遺跡発掘調査報告書』
〃	第49集	2000	『稲山遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃	第50集	2000	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅴ』
〃	第51集	2000	『桜峯(1)・雲谷山吹(3)遺跡発掘調査報告書』
〃	第52集	2000	『大矢沢野田(1)遺跡調査報告書』
〃	第53集	2000	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	第54集	2001	『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅱ・野木遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃	第55集	2001	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅵ』
〃	第56集	2001	『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅰ』
〃	第57集	2001	『稲山遺跡発掘調査概報Ⅲ』
〃	第58集	2001	『大矢沢野田(1)遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃	第59集	2001	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	第60集	2002	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅶ』
〃	第61集	2002	『大矢沢野田(1)遺跡発掘調査報告書』
〃	第62集	2002	『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃	第63集	2002	『稲山遺跡発掘調査概報Ⅳ』
〃	第64集	2002	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	第65集	2003	『雲谷山吹(4)～(7)遺跡発掘調査報告書』
〃	第66集	2003	『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
〃	第67集	2003	『深沢(3)遺跡発掘調査報告書』
〃	第68集	2003	『近野遺跡発掘調査報告書』
〃	第69集	2003	『市内遺跡発掘調査報告書11』
〃	第70集	2003	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅷ』
〃	第71集	2004	『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
〃	第72集	2004	『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅴ』
〃	第73集	2004	『新町野遺跡発掘調査概報』
〃	第74集	2004	『市内遺跡発掘調査報告書12』
〃	第75集	2004	『江渡遺跡発掘調査報告書』
〃	第76集	2005	『栄山(3)遺跡発掘調査報告書』
〃	第77集	2005	『赤坂遺跡発掘調査報告書』
〃	第78集	2005	『三内丸山(8)遺跡発掘調査報告書』
〃	第79集	2005	『市内遺跡発掘調査報告書13』
〃	第80集	2005	『合子沢松森(2)遺跡発掘調査概報』
〃	第81集	2005	『石江遺跡群発掘調査概報』
〃	第82集	2006	『三内沢部(3)遺跡発掘調査報告書』
〃	第83集	2006	『合子沢松森(2)遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃	第84集	2006	『新町野遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃	第85集	2006	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅸ』
〃	第86集	2006	『市内遺跡発掘調査報告書14』
〃	第87集	2006	『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
〃	第88集	2006	『史跡高屋敷館遺跡環境整備報告書Ⅱ』
〃	第89集	2006	『篠原遺跡発掘調査報告書』
〃	第90集	2007	『月見野(1)遺跡発掘調査報告書』
〃	第91集	2007	『市内遺跡発掘調査報告書15』
〃	第92集	2007	『新町野遺跡発掘調査概報Ⅲ』
〃	第93集	2007	『合子沢松森(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第94集	2007	『石江遺跡群発掘調査報告書』
〃	第95集	2008	『野尻(4)遺跡発掘調査報告書』
〃	第96集	2008	『葛野遺跡群発掘調査報告書』
〃	第97集	2008	『市内遺跡発掘調査報告書16』
〃	第98集	2008	『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
〃	第99集	2009	『市内遺跡発掘調査報告書17』
〃	第100集	2009	『阿部野(1)遺跡発掘調査報告書』
〃	第101集	2009	『大矢沢野田遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃	第102集	2009	『細越館遺跡発掘調査報告書』

青森市埋蔵文化財調査報告書　第101集

大矢沢野田遺跡発掘調査報告書Ⅱ

発行年月日　平成21年３月31日

発　　行　青森市教育委員会
〒038-8505　青森市柳川二丁目１番１号
TEL　017－761－4796

印　　刷　株式会社　精工プロセス
〒030-0964　青森市南佃１丁目17番41号
TEL　017－741－3011